ルーテル学院 東日本大震災

復興支援活動報告

ルーテル学院大学
JAPAN LUTHERAN COLLEGE

日本ルーテル神学校
Japan Lutheran Theological Seminary

ルーテル学院(ルーテル学院大学)では、東日本大震災において被害にあわれた方たちを思い起こし、復旧・復興に向けて祈りつつ、支援活動に取り組んでまいりました。それは、ルーテル教会(日本のルーテル教会と世界のルーテル教会)との協働を始め、地域行政や社会福祉協議会、数多くの団体(チャイルドファンドジャパンなど)との協力の内に行われてきたものです。

東日本大震災の発生後、ルーテル教会4教団は「ルーテル教会救援(JLER)」を設置し、被災地の支援プログラムに取り組み、この働きの一つとして仙台教会に「ルーテル支援センターとなりびと」を設置しました。

ルーテル学院大学では、教員や職員などが取り組んでいる震災における支援活動の情報を集約し、必要に応じて調整していくために、チャプレンと教職員による「ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校・東日本大震災復興支援特別チーム」を立ち上げ、学生たちのボランティア活動支援や啓発活動を中心に行ってきました。

この活動報告書では、支援活動にご協力いただいた被災地の関係諸団体の皆さますべてをご紹介できておりませんが、支援を通じて関わりを持つことができた皆様の協力なしでは前に進むことはできませんでした。心より感謝申し上げます。

復興にはまだ長い道のりが続きますが、わたしたちは、1日も早い復興を強く祈念しております。

ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校
復興支援特別チーム

東日本大震災ルーテル教会救援
Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

東日本大震災による被災者支援のため、2011年3月24日、日本福音ルーテル教会・日本ルーテル教団・近畿福音ルーテル教会・西日本福音ルーテル教会の４教会による「ルーテル教会救援対策本部」（JLER）が組織されました。本部は、日本福音ルーテル教会の事務局(東京・市ヶ谷)に設置され、世界ルーテル連盟（LWF）に連なる世界中のルーテル教会及び日本の各ルーテル教会の支援を受けながら、救援活動が進められてきました。震災直後の3月25日に初めての物資支援を行い、以後関係各所と連携し、「物資輸送プロジェクト」を開始。4月11日より専従スタッフを仙台に派遣し、被災地各地のニーズに柔軟に対応しながら緊急支援物資の配布・提供やボランティア派遣などを行ってきました。2011年9月からは仮設住宅支援もはじまり、より地域社会のニーズに寄り添いながら支援活動を続けてきました。

日本、そして世界中の様々な団体と協力・連携しながら…

民間の団体

- チャイルド・ファンド・ジャパン
- ルーテル社団
- 救援活動にあたるＮＰＯ・ＮＧＯ

ルーテル学院

- ルーテル学院大学・大学院
- 日本ルーテル神学校
- 復興支援特別チーム
- 付属研究所
- 在学生・卒業生・学校関係者

ルーテル教会

- ルーテル教会救援・ルーテル４議長会
- 支援センターとなりびと
- 世界の教会・現地の教会

行政・社協

- 被災地の行政
- 社会福祉協議会
- ボランティアセンター

東日本大震災ルーテル教会救援

ルーテル支援センターとなりびと

ルーテルとなりびと
東日本大震災ルーテル教会救援
Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

東日本大震災ルーテル教会救援
～Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】～

ルーテル教会救援の現地活動は月に一度
月次報告として発行されていました。

支援活動は宮城県を主に展開していましたが、その拠点となっているのが「ルーテル支援センターとなりびと」であり、日本福音ルーテル仙台教会の協力によって、仙台教会内に設置していました。ここでは、ボランティア（センタースタッフ）派遣、支援物資輸送、コミュニティ復興支援やボランティアの方々の仙台市での滞在先・宿泊先・食事（自炊）場として活用され、本学も、被災地のボランティア活動において、何度も利用させていただきました。しかしながら、この支援センターとなりびとも、2014年3月31日を以って3年に亘る東日本大震災ルーテル教会救援活動の終了に伴い、すべての活動を終了しました。

となりびと 活動支援ブログ
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/

ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校

東日本大震災復興支援特別チーム支援活動

復興支援特別チームでは、3年間を通して、60回以上に及ぶミーティングを重ね、「となりびと」を拠点とする、宮城県を中心としたボランティア活動をサポート（被災地の現状を見聞きし、現場のニーズや実際に必要とされているボランティア活動の調整、ボランティア活動への学生の参加支援、学生へのオリエンテーション・参加申込取りまとめ、報告会及び啓発活動、「となりびと」以外でのボランティア活動の情報提供など）を行ってきました。

これらの活動には、本学学生だけでも、延べ80人以上が関わり、参加しました。学生にとって、被災地で貴重な体験をすることは、支援をすることだけではなく、被災された人々の痛みを知ることで、復興について考える貴重な学びの機会となりました。

味の素スタジアムで炊き出し支援

日　程	2011.4.25
参加者	20名（学生9名・教員4名・寮母1名・三鷹教会6名）
場　所	味の素スタジアム

福島原子力発電所の事故、地震による被害を受けられた方を対象に3月17日～4月中旬頃まで、約700人もの住民が、東北被災地から調布市の「味の素スタジアム」に非難され過ごしておられました。私たちは、調布市社会福祉協議会と連絡をとりつつ、水団の炊き出しボランティアを行うことを決め、日本福音ルーテル教会東教区からも呼びかけられ、学生と教会員が共に参加しました。炊き出しの準備は学内の三鷹教会集会所の台所で、杉並聖真教会の北川牧師夫妻の協力のもと行い、学生に加えて、教会より4人のボランティア（三鷹教会、保谷教会）で行いました。味の素スタジアムでの炊き出しには、河田チャプレン、教員、寮母さん、本学学生、教会より5人のボランティア（板橋教会、三鷹教会、本郷教会など）が参加しました。避難生活者は2011年4月25日現在も50名以上残っており、その約半分の24人の方に水団を食べていただきました。水団は東北地方の方々にはなじみがあり、ほとんどの方がお代わりもしていただけました。この炊き出しの提供を通じて、避難者の方々とも会話ができ、しばし和んだ時間を共にすることができました。

被災地（東松島・石巻）でのボランティア活動

日　程	2011.6.1-6.4、6.29-7.4、8.24-8.28
参加者	20名（教員2名・学生18名） ※この他、個人でとなりびとを訪れた学生や、JDF被災地障害者支援センターふくしま、日本キャンパス・クルセード・フォー・クライス　ト・在日大韓基督教会NCC青年委員会等の活動に20名が参加しました。
場　所	宮城県仙台市（石巻・東松島など）

大学が実施する復興支援活動の第一弾として、仙台でのボランティア活動に参加しました。活動の拠点として、「ルーテル支援センター・となりびと」に受け入れていただき、ボランティアに出掛けました。活動内容は主に、東松島のグループホームで砂利ならし等のお手伝いや、石巻で泥かきや瓦礫の片付けが中心でした。また、被災された方達からお話をお伺いさせていただく機会もあり、被災地の惨状を目の当たりにしたことで、自分たちが出来ることの小ささを痛感せざるをえませんでしたが、一日も早い復興を祈りつつ、一生懸命汗を流しました。このボランティアは2011年6月～9月にかけて、3回にわたって行いました。

「ルーテル支援センターとなりびと」では、ボランティア活動に必要な備品及び道具（鉄板入り長靴や作業用手袋、ゴーグル）など保管し、いつ何時も活動が開始できるようにしていただきました。大学では、被災地へのボランティア参加する際には、必ず所定の書類を揃え申請をするように指導し、ボランティア保険加入証明、自己責任としてのボランティア参加の承諾と未成年の場合には保護者の承諾書を提出してもらい、万全の体制でボランティアに臨みました。

スタディツアー①

支援活動は2年目を迎え、被災地以外では震災関連の報道が減り始め、一部の住民からは「もう震災のことが忘れられている」という声も聞こえてきました。そこで、被災地の現状と、となりびとの活動現場を知り、被災地で見聞きしたことを各地に伝えてもらうことで、次への備えとしてもらうこと、そして被災地復興への新しい試みを目的として、ルーテル学院大学と「となりびと」が共同で、春休みと夏休みを利用し、計4回にわたり被災地でのスタディツアーを行いました。具体的な目的としては、被災地の視察や被災者訪問などを行い、被災地の今を目に焼き付けることで、そこから震災の教訓を学び、いま自分たちに何ができるかを見出しながら、被災地を学び、考えることです。また、ツアー出発前には、綿密なミーティングを行い、被災地のことを十分に学んでからツアーに出かけました。このスタディツアーでは、石巻北上にあるデイケアセンター「はまぎく」や、「石巻社会福祉協議会」、東松島市「石巻身体障害者歩む会」、石巻市河南町などへの訪問、石巻・大森団地（仮設住宅）夏祭り準備の運営、その他様々な場所を現地スタッフの方の案内により訪問いたしました。 学生にとっては1週間程度の短い期間ではありますが、このスタディツアー活動を通して「私たちにいま何ができるか」ということを、何度も自問自答しながら考えることができたのではないかと思います。

日　程	第１弾　2012.3.22-25
参加者	参加者8名 （学生6名、教員2名/河田・原島）
内容	3/22・大学集合・となりびと到着・夕食調理・ミーティング 3/23・大川小学校・献花とお祈り ・デイケアセンターはまぎく・花壇整備 ・コラージュ作成・利用者さんとのお茶会 3/24・石巻市/東松島市/牡鹿半島など被災地訪問 3/25・礼拝・となりびと出発

デイケアセンター はまぎく

となりびとのキッチンを使用した調理風景

春に向けての花壇整備

大川小学校・献花とお祈り

スタディツアー②

２回目となったスタディツアーでは、石巻・大森団地（仮設住宅）夏祭りの準備に携り、夏祭り当日は、朝5時に起床し、8時から会場設営を開始し、水ヨーヨー作り、イモ餅、自焙煎珈琲＆カフェ、シャボン玉遊び等の準備に取り組みました。

日程	2012.8.22-26
参加者	12名（教員2名/河田・原島、学生10名
行程	8/22 ・移動、現地集合 ・ミーティング ・夕食調理 8/23 ・草取り（石巻） ・夏祭り企画 「芋もち作り」 「コーヒー焙煎」 「シャボン玉遊び」準備 8/24 ・大森仮設で祭りの設営手伝い ・準備終了後に被災地見学 8/25 ・大森仮設での夏祭り出店、手伝い 8/26 ・仙台教会にて礼拝～現地解散

コーヒー焙煎作業

芋もち作り

芋もちの出店

参加者の集合写真

スタディツアー③

3回目となるスタディツアーは、ツアー出発前に事前学習を行い、3.11に被災地で何が起きたのかを、各行政及び事業所を訪問しながら振り返りました。

日程	2013.3.14-17
参加者	9名（教員1名/河田、学生8名）
行程	3/14 ・移動・現地集合 3/15 ・となりびと活動紹介 ・被災地で起きたこと・起きている事の解説 ・見学(石巻/大曲/南浜/日和山/渡波/鹿妻等) ・石巻社会福祉協議会ささえあい総括センター/北川進所長の話（震災時の社協の働きについて） 3/16 ・野蒜地域・宮戸地域見学 ・介護事業所「すみちゃんの家」伊藤寿美子氏 ・石巻身体障害者/歩む会の及川会長宅(仮設) ・石巻市河南町訪問(身体障碍者が体験したことや仮設住宅の問題等について) 3/17 ・大川小、雄勝、女川を巡って仙台へ移動

伊藤寿美子氏

「歩む会」及川会長

石巻社会福祉協議会

参加者の集合写真

スタディツアー④

最後のスタディツアーは、昨年に引き続き、大森仮説団地での夏祭りに向けての準備をしました。昨年の経験を活かしながら、テントやステージの設営など、夏祭りの準備作業を中心に行いました。

日程	2013.8.21-25
参加者	9名（教員1名/河田、学生8名）
行程	8/21 ・移動・現地集合・ミーティング 8/22 ・大森仮設夏祭り企画・準備 8/23 ・大森仮設で祭りの設営手伝い ・被災地を見学 8/24 ・大森団地夏祭り当日 8/25 ・仙台教会にて礼拝 ・現地解散

夏祭り前日準備

夏祭りの出店

子どもコーナー（シャボン玉）

夏祭りを締めくくる盆踊り

聖歌隊と神学生による奉仕

日　程	2011.9.11
参加者	河田優・聖歌隊・神学生
場　所	宮城県仙台市・東松島青少年の家等

震災から半年後の2011年9月11日、仙台市のＪＥＬＣ鶴ヶ谷教会で東日本大震災を覚える礼拝が行われ、神学生や聖歌隊が参加しました。神学生は前もって被災地での泥かきなどのボランティアを行い、その体験や被災された方々との出会いを通しての証しを行い、聖歌隊は声を合わせての讃美をもって奉仕しました。藤井邦昭牧師と河田チャプレンの司式により礼拝は進められ、50名を越える参加者と共に蝋燭に灯った主の復活の火が交わされ、復興への祈りがあわされました。また聖歌隊は、その礼拝後に、大きな被害に遭った2010年度の合宿地「東松島青少年の家」を訪問しました。たった数ヶ月前、合宿で過ごした地の変わり果てた悲惨な有り様に驚き、悲しみつつも詩篇２３篇「主はわが牧人」を歌い、亡くなった方たちに神様の導きと慰めを覚えて祈りました。

JELC鶴ヶ谷教会礼拝賛美

東松島青少年の家

仙台市内における瓦礫の撤去作業

仮設住宅での支援物資配布

レベッカ・フラナリー氏によるハープボランティア

日　程	第1回 2011.12.18-20 第2回 2012.12.3-5 第3回 2013.12.9-11
参加者	R・フラナリー、P・リース、江藤直純 通訳/中山康子、学生6名
場　所	相川保育園・デイケアセンターはまぎく・仮設追波川多目的団地等

相川保育園での関わり

はまぎくでの利用者との触れあい

子どもたちへのクリスマスプレゼント

ハープコンサートの様子

ピーター・リース氏によるサンタクロース

ハーピストで、本学客員教授でもあるR・フラナリー氏が、ハープ演奏に仙台を訪れ、主に石巻市北上町の「相川保育園」「デイケアセンターはまぎく」「仮設追波川多目的団地」の3ヶ所で演奏会を開催しました。クリスマスシーズンということもあり、R・フラナリー氏のご主人であるP・リース氏がサンタクロースの格好をして登場しました。このサプライズは、高齢者、特に子どもたちは大喜びであり、サンタクロースから素敵なプレゼントが贈られました。相川保育園の子どもたちには、お菓子を詰め合わされたプレゼントが渡され、高齢者施設デイケアセンターでは、学園祭で実施された「おすそわけプロジェクト～支援物資とメッセージを届けよう～」という企画で在学生や地域の方から集められた支援物資とメッセージカードが送られ、大変喜ばれていました。

チャリティーコンサート開催

日　程 募金額	第1回　2011.06.25 来場者約200名　81,179円 (募金) 第2回　2011.12.09 来場者約150名　37,004円 (募金) 第3回　2012.12.21 来場者約150名　13,600円 (グッズ売上) 第4回　2013.12.13 来場者約120名　13,460円 (グッズ売上) 募金総額145,243円
場　所	ルーテル学院大学　チャペル

震災から数ヶ月が経ち、多くの学生が被災地へボランティア活動へと向かいました。しかし、学生の中には、復興支援のために被災地へ行きたくても、様々な事情により行くことができない学生も多くいました。そんな学生たちから「私たちに今できることは何か」「何かできることはないか」と支援を希望する声が多く寄せられ、その思いを形にしたのがチャリティーコンサートでした。このコンサートを開催するにあたり、まず学生で組織された実行委員会を立ち上げました。そして学内の音楽団体・サークルに参加を呼びかけました。聖歌隊・ラウスアンジェリカ（ハンドベルクワイア）・楽友会（吹奏楽）・ナージャ（弦楽アンサンブル）など、コンサートの趣旨に賛同してくれた多くのサークルに参加していただくことになりました。その他にも、チャペルオルガニスト、ハーピストで本学客員教授でもあるレベッカ・フラナリー氏にご担当いただいていた「キリスト教音楽特講（2009～2013年度まで開講）」受講生の方々も参加していただきました。また、本学卒業生でありアーティストのＭＡＹＵＫＯさん（クラシックギター）、田中志穂さん（津軽三味線演奏家）にもご協力いただき、清らかで美しいメロディがチャペルに響き渡り、被災地へ向けて多くの方の思いが一つになりました。

石巻市・上北町「にっこり手しごと村」ミサンガ・おじぞうさん

コンサート（チャペル）の様子

宮城県気仙沼市の女性グループ「KEPPAPE」クリスマスカード

田中志穂さんによる津軽三味線

「KEPPAPE」ツリーハウス

レベッカ先生によるハープ演奏

愛祭での活動

愛祭における復興支援活動・活動報告会・活動パネル展示・復興支援グッズ販売等

日程 募金額	2011.11.5-6 活動報告者 4名　9,600円 (グッズ売上) 4,388円 (募金) 2012.11.2-3 活動報告者13名 42,250円 (グッズ売上) 2013.11.2-3 44,350円 (グッズ売上)

愛祭では、活動報告のパネル展示、ボランティア・スタディツアー活動に行った学生による報告会、「となりびと」が支援をしてきた先で生産されている物品の販売などの企画を実施しました。パネル展示では、これまでの活動記録と、被災後の子どものこころのケアの手引き（日本語版・中国語・韓国語・タガログ語版）と、ウェットティッシュをセットにして、実際に配布した震災後のセルフケアカードを展示しました。活動報告会では、自身で撮影した写真などを交え、被災地への思いを乗せながらメッセージを伝えました。物品販売では、石巻の女性メンバーの方が手作りで一つ一つ丁寧に編んで作られていた、北上にっこりミサンガ、宮城県気仙沼市の女性グループ「KEPPAPE」のハウスツリー、ハートストラップ、歩む会の幸せくるみ、ルーテル市ヶ谷教会員の方が作成されたリストバンド、その他現地の海産物等を販売し、グッズの売上は3年間で計96,200円でした。 2011年度の愛祭では、「おすそわけプロジェクト～支援物資とメッセージを届けよう～」と題して、被災地へ支援物資とメッセージカードを送る企画を実施しました。被災地では仮設住宅が建ち始め、避難所から仮設住宅や自宅に帰る世帯が多くなってきたことに対して行政から自立とみなされ、支援物資などがストップし、収入も車もなく買い物にいけない被災者の方々にとって、今が一番支援物資を必要としているという現状を知りました。この事態にとなりびとでは、全国のルーテル教会を始め、地域の方に支援物資を呼び掛け、いただいた品物を利用し仮設住宅でのお茶会やフリーマーケットを開催し、集まった品物を配布するプロジェクトを行いました。このような経緯から、このプロジェクトに協力したいと考え、愛祭において支援物資を地域の方から頂戴し、その支援物資にメッセージカードを添えて現地へ届けたいと考えました。当日は、５０を超える支援物資とメッセージカードが集まり、後日、支援物資とメッセージカードを持って現地へ届けました（※Project5ハープボランティアにて配布）。

復興支援グッズ販売
マザーリーフに包んで
販売したミサンガ

ボランティア活動パネル展示

活動報告会の様子

おすそわけプロジェクトで寄せら
れた支援物資とメッセージカード

復興支援グッズ販売

学生・教員によるボランティア活動体験報告

日程	2011.6.11 保護者会 2011.6.25　チャリティコンサート 2011.7.27　活動報告会 2011.11.5.6　愛祭 2011.12.9　チャリティコンサート 2012.4.11　スタディツアー報告会 2012.11.2.3　愛祭 2013.4.10　スタディツアー報告会
報告者	計49名

被災地の復旧・復興活動は長期にわたりました。そのために復興支援チームは学内においてこれまでの取組みを報告しつつ、さらに活動の必要を訴えてきました。学生たちのボランティア報告は、保護者会、学生総会、愛祭、チャリティコンサートなど、3年間にわたり計8回行われてきました。また、日々のチャペルでの礼拝でも伝えられました。さらに掲示場所を確保し、随時、復旧・復興支援に関する情報を提供し、啓発を行ってきました。報告会は「わたしたちにできること」と題して行われ、ボランティアに参加した学生全員が報告を行い、日本福音ルーテル教会の立野先生、学外ボランティア団体「Air」で活動している学生などの報告もありました。報告会は多いときで80名を越え、多くの方の心に改めて、震災の恐さや復興支援の関わり方の難しさなどが伝えられました。

チャリティコンサートでの報告

活動報告会・80名を越える参加者

自作ポスター展示を交えての報告

活動報告会・河田チャプレン

活動報告会・学生による実演

学園祭での報告

復興支援募金活動

実施期間	2011.6.8 - 2014.3.31
募金額	661.182円

2011年6月8日より、学内において「東日本大震災募金活動」を開始しました。お寄せいただいた募金は、被災地に向かう学生ボランティアの活動費（現地でのボランティア活動装備品等、防塵マスク、長靴、手袋など、現地までの交通費補助、他、必要諸経費等々）などに充てさせていただきました。多くの方々のご協力・ご支援により、多大なる義援金を頂戴いたしました。ご協力いただいた皆様、心より感謝申し上げます。

東日本大震災
救援募金のお願い

ルーテル学院では、ルーテル教会と共に東日本大震災において
被害にあわれた方たちの復旧、復興支援活動を行っており
被災地の早期復興を願うとともに
この災害により被災された方々を支援するため募金箱を設置いたしました

皆様からお寄せいただいた募金は
被災地に向かう学生ボランティアの
活動費などに充てさせていただきます

皆様の温かいご支援とお力添えをぜひよ
りお願い致します

学校法人ルーテル学院

募金箱設置場所
◎学生支援センター受付
◎チャペル（お昼の礼拝時）

活動の様子を随時ホームページにて掲載してまいりますのでご覧ください

ルーテル学院大学ホームページ　http://www.luther.ac.jp/
日本福音ルーテル教会 東日本大震災救援対策本部ブログ　http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/

募金の様子

募金箱

夏祭りでの支援

実施日/募金額	2011.7.13　4,935円 2012.7.18　7,650円

学生会主催企画「夏祭り」が毎年7月に行われ、2年間にわたり復興支援に基づいたテーマのもと行われました。2011年の夏祭りでは、模擬店を出店し、その収益を全額募金に充てました。2012年は「おすそわけ」というテーマに沿い、模擬店のほか、得た収益を被災地で行われているお茶っ子サロン（お茶会）等で使用するお菓子を購入し、被災地へ届け、参加者全員で被災地へ祈りをささげました。お届けしたお菓子は、何が良いか考え、東京ならではのご当地お菓子がいいのでは、とのアイデアから「青梅せんべい」に決まりました。

夏祭りを担当した学生

礼拝の様子

つるしびな・全国巡回展示

実施期間	2013.4.22-5.10

震災から二年が経過し、被災地の絆の再生を目指すため、地元ボランティア団体である「河北ボランティア友の会」の指導とルーテル教会救援の支援により、仮設団地に住む方々と共に、2012年8月～2013年2月まで、宮城県石巻市河北町の三つの仮設団地(河北三反走、追波川河川、飯野川校)集会所で「つるしびな」がつくられました。その支援の感謝のしるしとして、ルーテル教会救援に「つるしびな」が贈呈され、これまで様々な支援をいただいた全国の皆様に、その感想等(被災地を忘れていない、忘れない)を被災地の方々にお届けするため、「つるしびな」の全国巡回展を開催し、夏季期間中にルーテル学院大学でも展示を行い、メッセージも募りました。

つるしびな展示

メッセージ台帳

齋藤みや子氏によるクヌーテン講演会

２０１３年４月24日、ヌーテン講演会にて、石巻ボランティア・コーディネーターで、精神障碍者当事者グループ「シャローム石巻」メンバーである、齋藤みや子氏（日本キリスト教団石巻栄光教会員）を講演者としてお招きし、東日本大震災を被災された実体験や当時の現状などお話していただきました。また、講演会冒頭では、となりびとスタッフ佐藤文敬氏より、となりびとの働きや役割等の説明と紹介がなされました。

斉藤みや子氏・プロフィール

気仙沼市本吉町馬籠出身で、小学校の養護教諭を長く勤める。石巻栄光教会の信徒であり、その教会の人たちが中心になって活動している精神障碍者の当事者グループ「シャローム石巻」のメンバー。東日本大震災では、自宅が床下浸水し、自動車などは廃車となる被害を受ける。震災後、となりびとのスタッフと出会い、地元のボランティアとして個人的に活動を行い、ときには外部からのボランティアを自宅に泊めたりするなど、様々な支援団体のコーディネートにご尽力され、現地のニーズと多くの支援をつなぐ活動し現在に至る。

齋藤みやこ氏

熱心に聞き入る参加者

となりびと・佐藤文敬氏

講演会の様子（参加者約200名）

ボランティア活動時におけるウィンドブレーカーを作成

ボランティア活動時（主に秋～冬期用）に使用する、オリジナルのウィンドブレーカーを作成しました。このウィンドブレーカーは、マイクロファイバーで高密度に織り上げられており、撥水（耐水）機能や防風効果があります。また、裏地には起毛メッシュ素材を使用しているので、透湿性（蒸れにくい）と保湿性も保つことができるので、ボランティアなどの活動時には最適な素材です。色は周りの方に「元気を与えたい」というメッセージを込め、明るいオレンジを採用し、背中には「ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校・ボランティアスタッフ」とデザインがされています。このウィンドブレーカーは、復興支援以外のボランティア活動時にも使用しています。